特集

ボーイスカウト本来のやり方 やっぱり、まず「班」ありき

「スカウト数が少なくて、班活動がうまくいきません…」
「1こ班編成で、つい隊長が直接指導してしまいます…」
そんな指導者の皆さんの悩みはよく聞かれるところです。そして、
「現代のスカウトにとって魅力的なプログラムとは?」
これも私たちスカウト指導者にとって普遍的な問題かもしれません。
そんな悩み、一度にすべてズバリ解決なんて特効薬があれば誰も苦労はしませんが、
ボーイスカウト本来のやり方を改めて見直してみると、
一つの解決の糸口が見えてきます。

「うまくいかないなあ」から「うまくいくかも」へ。
気持ちの変化のヒントを一緒に探してみませんか?

●複数班なくとも、班制教育はできる

「スカウトが少なくて班活動がうまくいかない」とはよく聞く話。たしかに隊集会で技能やゲームを競い合う、といった活動は１こ班しかない隊ではできませんが、「班活動」「班制教育」はなにも競い合いだけではありません。

スカウティングの成り立ちを振り返ってみます。

1. 創始者B-Pが少年たちのための面白い野外活動の手引きを出版した。＝**活動の提案**
2. それを読んだ少年が各地で集まり、書かれたことをまねし始めた。＝**自主活動の開始**
3. 少年たちだけのキャンプなどに周囲の大人の理解を得るため、大人についてもらうことにした。＝**指導者の誕生**

元々ボーイスカウトは「子どもたちのグループによる活動」が先にあり、指導者は世話役として後から加わったのです。

その少年少女のグループによる自主活動とは…

●班長を中心に、仲間でいろんなことを話し合いながら、みんなで班を運営する。

●新しい仲間には先輩が指導をし、全員が班の中でそれぞれ責任を担いながらチームワークを身につけていく。

この「**子どもたち同士による学び合い**」という仕組みこそが班制教育の核であり、それは隊や団という組織が確立する以前から有効な「ボーイスカウト本来のやり方」でした。たとえ少人数の隊でも、班長を中心とした子どもたちによる自主的な活動こそが、まず第一に目指すべきところなのです。

●隊長は班長を通して活動する

一人ひとりのスカウトへの連絡、集会を休んだスカウトへのケア、次の集会の細かな計画、そして手旗信号やロープ結びの指導…

これらは本来班長が責任をもつ仕事ですが、指導者が「仕方ないな」と肩代わりしてしまうことも少なくないようです。たしかにそのほうが早くて確実です。また、１こ班しかないのに班長訓練というのも、どこか妙な感じもあります。しかし、その「仕方ないな」をぐっとこらえ、スカウトに任せた責務を彼ら自身で果たせるように支援するのがボーイスカウトのやり方なのです。

創始者B-Pは、『**隊長の手引**』※の冒頭ちかくに、「スカウティングは簡単である」という見出しの一文で、以下の点をきちんと理解しさえすれば、った３つのことを挙げています。その一つが、

〈隊長は、班長を通して活動をする。〉

また、同書の少し先には、こんな記述もありました。

「班の一人ひとりの少年の性質をしっかりと捉え、伸ばすことは班長次第である。これは大変な注文のように思われるが、やってみればうまくいくものである。」

どうでしょう？　つい差し出してしまうその手を、ぐっとこらえてスカウトに任せてみませんか。

たとえば

スカウトにキャンプを丸ごと任せてみる

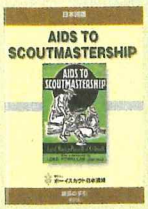
指導者からの提案・助言一切なしで、スカウトたちにキャンプのプログラムを任せてみる。

すると「何もしないのんびりキャンプ」なんて言い出すのはよくあること。経験豊かな指導者は笑いながらこう言います。

「それでも好きにやらせておくのさ。彼らはだらだらしたくだらないキャンプをやるよ実際。でもせいぜい２回までかな。すぐにこんなのつまんないって気づいて、自分たちであれしようこれしようと遊びの計画を始めるんだよ」

(K.K.／ローバー隊長)

※
ベーデン-パウエル著
隊長の手引
新訳版
ほかの2つはこの本の
25頁を参照！
品番　-65581
700円(税込)



●より楽しい環境の提供を考える

少年たちの小さなグループがやがていくつか集まって、共通の課題を持ち、競い合った。

班活動から隊活動へとスカウトたちの遊びが自然に広がっていったように、やはり他班との競い合いという要素は少年少女にとって魅力的なものです。人数が多い隊のスカウトたちはその楽しさを日ごろから味わっていますが、そうでない隊のスカウトは少し気の毒…。自隊の隊員を増やしてあげたいのはやまやまですが、これは簡単にはいきません。

それでも、「スカウトたちに楽しめる環境を提供することを優先的に考えよう」というわけで、まずは「他隊との合同活動」に着手してみませんか。

〈方法〉

1. 地区のラウンドテーブル等で、コミッショナーや他隊のボーイ隊指導者と相談。相手を探す。
2. 他の隊と希望が合えば、3か月程度先の合同隊集会の予定を組む。
3. 双方の隊でそれぞれ、合同隊集会への希望などを検討させる。
4. 双方の隊のスカウト(班長・次長)の合同会議を開き、合同隊集会の企画を話し合う。
5. 企画に基づき、それぞれの隊で訓練。隊集会をともにする。

一過性のイベントに終わらせないよう、スカウト同士の話し合い、各隊での準備プロセスを重視して、有意義な合同隊集会にしたいものです。ゲームの勝敗という楽しさだけでなく、班長に自信を持たせる好機が増えたり、指導者にとっての新しい気づきなど、多くの良い収穫があるでしょう。実施された方々に聞くと、やはり「スカウトたちが生き生きしてくる確かな手応えがある」とのことですよ。

●指導者の立ち位置という問題

駅前など人目のある場所での集合。「ワシ班全員集合しました！」との班長からの報告を敬礼で受ける隊長。そんなとき、周囲の視線がちょっと気になったことはありませんか？　こんなときはスカウトの先輩くらいの若者に仕切ってもらって、「よしよし」と横で見守るくらいでいたいもの。スカウトたちだって、近い年齢のリーダー格に親しみを感じます。

実はそんな仕組みがもともとあるんです。それが「上級班長※右MEMO参照」。そこでもやはり、「少年たち同士による学び合い」があるのです。

●魅力的なプログラムとは

「現代のスカウトに魅力的なプログラムとは？」これもよくある話題。題材をあれこれ用意してあげたいのは指導者の親心。しかし気をつけたいのは、どんなに魅力的に見えるプログラムでも、それが大人から与えられるものなら、学校や遊園地と変わらないということ。

「自分たちのしたいことを、自分たちでする」のがボーイスカウトの楽しさ。子ども同士でのびのび遊ぶ中から創意工夫が芽生え、また社会性も育まれていきます。指導者は、スカウト自ら面白いことを見つけていくように仕向け、そして一度彼らから企画が出たら、けして「難しい」と言わず、なんとしてでも実現すること。「自分たちでやりたいと言ったことができた！」これこそがボーイスカウトの「魅力的なプログラム」なのです。

MEMO

上級班長とは

隊長の指導のもと、班長会議や隊活動の中心となる班長たちのさらなる班長といったポジション。「指導力を有し、1級以上、班長・次長として半年以上の経験を持つ18歳以下のスカウト」というのが条件。ボーイ隊の最上級スカウト、あるいはベンチャー隊のスカウトが務める。

心構え

3年間辛抱してみる

ちょうど班長を任せたい中3が受験で抜けがちなのは辛いところです。だから3年後の中2班長を見据えて、現在初級のスカウトをじっくり育てていくんです。今は班活動が機能していなくても、そこを目指して辛抱を重ねて、スカウトたちに「自分たちでやる」ことを身につけさせていったら、必ず3年後にはきちんとした班活動が動き出しますよ。

(F.M.／団委員長)

スカウティングはいろいろな点で「子どもたち同士の世界」を重んじているということが見えてくるかと思います。まずは皆さんの隊のいろんなことを、班長に任せることから。　さて、この特集はさらに班長をより良く機能させるためのお話へ。8頁の記事に続きます。